

# 諏訪湖から「海ごみゼロ」へ！ 子どもたちの学び・体験報告 2025

岡谷こどもエコクラブ・海と日本プロジェクト in 長野

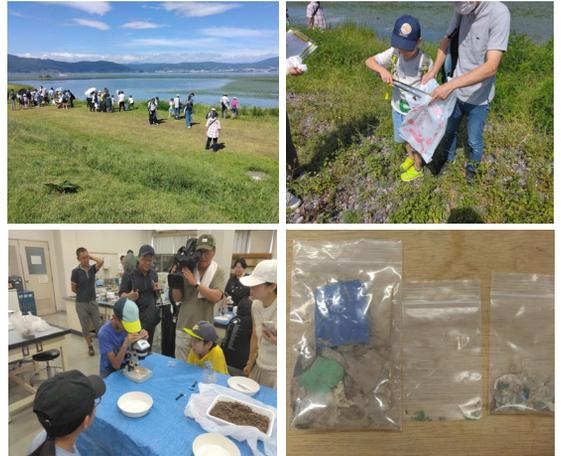
## ★はじめに

今、海で、5ミリ以下の小さなプラスチックのごみ「**マイクロプラスチックごみ**」が増えて問題になっています。間違っても魚や動物が食べてしまったり、その影響で生き物が減ったりしてしまうからです。そうしたごみの多くは陸地で発生し、湖や川を流れ、海へ出ています。実は諏訪湖でもマイクロプラスチックごみが見つっています。海のない長野県でも考えなくてはならない問題なのです。「岡谷こどもエコクラブ」は、なぜ、そうしたごみが増えているのか、どうしたら減らせるかを毎年、調べてきました。2025年は、諏訪湖と、山梨県から神奈川県へと流れる「桂川（かつらがわ）・相模川（さがみがわ）」で学びを深めました。

## ● 諏訪湖のマイクロプラスチックごみを知る

2025年9月、クラブは諏訪湖でゴミ拾いをし、プラスチックの破片やビニールのくずなど「マイクロ化」しそうなごみを見つけました。

そのあと実際に諏訪湖で見つかったマイクロプラスチックごみを観察。顕微鏡をのぞくと、緑や赤の小さなごみが…。また湖岸で見つかった小さなごみも観察。人工芝のきれはしや、農業で使う肥料の小さな入れ物が目立ちました。



## ● 山中湖から相模川河口までを調査

10月、クラブは山中湖を源流（川の始まり）とする桂川（山梨県）・相模川（神奈川県）へ。流域では「桂川・相模川流域協議会」という団体が作られ、県をまたいで、ごみを減らす活動が行われています。諏訪湖と天竜川の関係によく似ており参考にしようと調査にしたのです。



## 【上流（山中湖）で学習】

山中湖は観光地ということもあり、人の往来も多い場所。ごみの流入も多いそうです。このため、最上流部には柵が設置されていて、缶やペットボトルなどの大きなごみは、ここで食い止められていました。



### 【中流（ダム湖）での学習】

次は神奈川県にある「津久井湖(つくいこ)」へ。こちらはダムによってできた相模川のダム湖です。大雨が降ると、上流から流れてきたごみがダムにたまりまます。それをクレーンで回収しています。その集積場には木のくずだけでなく、大量のプラスチックごみが混ざっていました。



### 【下流（河口）での学習】

最後は神奈川県茅ヶ崎（ちがさき）市の相模川の河口へ。岸边には上流から運ばれてきたごみが打ち寄せられていて、「流域協議会」のメンバーが定期的に回収しているそうです。そこでクラブの子どもたちもごみ拾いを行いました。木くずの他に、たくさんのプラスチックごみが落ちていて、中には大きなタイヤやポリタンクもありました。回収したごみは30分ほどで20kgほどに。子どもたちからは「もっとごみを減らさないといけない」「見つけたら拾うしかない！」との声が上がっていました。



### ● 岡谷市の市長さんに報告

12月、クラブの子どもたちは、諏訪湖、桂川・相模川で学んだことを岡谷市の早出一真市長に報告しました。「上流にいる僕たちが頑張らないと海のごみはもっと大変になってしまう」「一人一人の心がけて諏訪湖や川や海をきれいにしていこう」と発表。早出市長は「みなさん、一人一人ができることを始めることが大変重要。みんなの力で諏訪湖や海の環境を守っていきましょう」と、子どもたちの決意を励ましました。



★活動報告はWEBサイトにも掲載しています。 <https://nagano.uminohi.jp/>

海と日本プロジェクト 長野 検索

この体験学習は日本財団の「海と日本プロジェクト・CHANGE FOR THE BLUE」の一環として行われました。